

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

大阪府

学校名

能勢町 能勢ささゆり学園

人権課題

子ども

対象学年・  
取り扱った教科等

小学1～6年生・国語

目標・人権教育のねらい

知識的側面：仲間の生活背景や思いを知る。  
 価値的・態度的側面：自らのくらしを振り返り、自分や身近な人たちのことを考える。  
 技能的側面：ありのままの生活を受け止め乗り越えるしなやかさを育む。

実施した内容

「綴り方集会」の実施（年3回）  
 ・各学年で作文や日記を発表する場を設定し、感想や意見を交流する。（各学年3時間）

工夫した点

- ・入学時より発表した原稿を子どもたちの成長の記録として蓄積している。
- ・国語の「書くこと」の単元のねらいや内容と合わせて、関連した内容のテーマで書き、接続詞の使い方や会話文の使い方等、聞き手に伝わりやすい表現のしかたも合わせて指導した。
- ・自分の生活や内面を学年の仲間に伝えることで、仲間への理解や今後の自身の気づきを深める機会とし、「〇〇がいるからわたしも学校に来ている」という思いを持たせる等、互いの理解を深め合う集団づくりの土台としている。

他教科との  
関連

総合的な学習の時間や社会科における「地域とのつながり」や特別活動における「学校行事」など、これらにおける体験等を題材として、国語の「書くこと」の単元のねらいと関連させ、綴るようにしている。

事業成果

（1～6年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月）  
 知識的側面：いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか。（91.1%⇒94.0%）  
 価値的・態度的側面：あなたのよいところを先生や友たちは認めてくれていますか。（87.1%⇒90.8%）  
 技能的側面：話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりしていますか。（80.7%⇒83.5%）  
 （子どもの変容）  
 仲間の生活や思いにふれ、互いに認めあいつながりあう喜びを知り、積極的に自分を語ろうとする姿勢につながった。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

大阪府

学校名

能勢町 能勢ささゆり学園

人権課題

同和問題

対象学年・  
取り扱った教科等

小学6年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

知識的側面：全国水平社の結成に携わった人々の思いや願いがわかる。  
 価値・態度的側面：地域で差別をなくすために立ち上がった人々の姿を通して生き方について考える。  
 技能的側面：差別をなくすために、自分たちの生活や集団を見つめ直し、自分たちにできることをしようとする。

実施した内容

- ・「全国水平社」  
全国水平社について学び、差別をなくすために立ち上がった人々の姿を通して、自分の生き方について考える。（1時間）
- ・「能勢の水平社と自分たちの生活」  
差別をなくすために、自分たちの生活や集団を見つめ直す。（2時間）

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・通史と関連付けた郷土の史実から、身近な人に学び、自分の生き方に生かしやすいようにした。
  - ・「堀越の水」「渋染一揆」など、部落差別に関わる既習事項と関連付けて共通点を見つけることで、差別の構造や人々の工夫や知恵に気づきやすいようにした。
- (地域や関係機関との連携)
- ・地域の方からの聞き取り資料を元に、講師としてお招きした近隣小学校勤務の人権担当教員の協力で地域資料を作成し、使用した。

他教科との  
関連

社会：「郷土を開いた人々」（4年生） 「世界に歩み出した日本」（6年生）  
 総合的な学習の時間：「渋染一揆」（6年生）

事業成果

(6年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月)

- ・知識的側面：すべての人が大切にされなくてはならない (95.9%⇒98%)
- ・価値・態度的側面：将来の夢や目標がある (75.5%⇒86%)
- ・技能的側面：友だちの話や意見を最後まで聞くことができる (98%⇒100%) (子どもの変容)

自分のふるさとに誇りを持ち、自分は一人ではなく、仲間とともに行動したいという姿勢を持つようになった。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

大阪府

学校名

能勢町 能勢ささゆり学園

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

中学3年生（9年生）・国語

目標・人権教育のねらい

知識的側面：インターネットにおける人権侵害の実態について知る。  
 価値・態度的側面：普段の生活の中でも、不用意な行動、言動により誰かを陥れたり、傷つけたりしないようにするとともに、インターネット上の人権侵害に鋭く気づき、許さない態度を身につける。  
 技能的側面：インターネットにおける人権侵害から自らの身を守りながら、活用していくためにできることについて考える。

実施した内容

・「情報社会を生きる ーメディア・リテラシー」  
 本文で書かれているメディアリテラシーの在り方に加え、SNS上の悪質な誹謗中傷や個人情報の漏洩などの事例を取り上げ、意見交流を通して、それぞれのインターネット、SNSとの付き合い方についてどのような態度で臨むべきか、どうすればこういった問題を防ぐことができるかについて考える。  
 （2時間）

工夫した点

・できるだけ具体的な事例を取り上げて意見を交流した。  
 ・今後インターネット、SNSの使用は避けることができないという前提で、「危険だから使用しない」ということではなく、使用する上でどのようなところに危険が潜んでいて、どのようなことに気を付けるべきかを考えるとともに、悪意はなくとも加害者の立場にもなりうることを確認した。

他教科との  
関連

総合的な学習の時間：ネットに潜む危険に関する講演会（保護者合同）

事業成果

（9年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月）  
 知識的側面：人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている。（90.6%⇒93.2%）  
 価値・態度的側面：差別を許さない態度を身につけている。（90.6%⇒93.2%）  
 技能的側面：相手の立場に立って物事を考えることがある。（84.4%⇒100%）（子どもの変容）  
 インターネット上の人権侵害を自分事としてとらえ、差別的な表現内容に対して鋭い感覚を持つことにつながった。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

大阪府

学校名

能勢町 能勢ささゆり学園

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・  
取り扱った教科等

中学3年生（9年生）・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

知識的側面：ジェンダー平等を目標にする社会の現状や取組みを知る。  
 価値・態度的側面：一人ひとりを尊重する態度を身につけ、自分自身の生き方を切りひらこうとする。  
 技能的側面：ロールモデルが直面した課題から、偏見や固定概念にとらわれず、ジェンダーバイアスの解消に向けて自分ができることを考える。

実施した内容

- ・自分の将来のビジョンを考え、友達と交流する。  
ジェンダーギャップ指数等から社会や身の回りのジェンダーバイアスに気づく。（1時間）
- ・担任の生活や家族をロールモデルとしてジェンダー平等達成のために大切なことを考える。  
自他の価値観を尊重し、自分らしく生きるためにできることを交流する。（1時間）

工夫した点

- （指導上の工夫）
- ・事前に生徒にアンケートをとり、自分たちが持つ将来のビジョンに影響しかねないジェンダーバイアスが自分たちにも存在することに気づかせ、課題を自分ごととしてとらえさせるようにした。
- （地域や関係機関との連携）
- ・昨年度、セクシュアルマイノリティの方と出会い、ジェンダーにとらわれず自分らしく生きることの価値について学んだことを今回の学習の土台とした。

他教科との  
関連

技術・家庭：家族・家庭や地域とのかかわり 総合的な学習の時間：進路学習

事業成果

（9年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月）  
 知識的側面：人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている。（90.6%⇒93.2%）  
 価値・態度的側面：わたしには、いろいろないいところがある。（52.8%⇒66.7%）  
 技能的側面：人が困っているときに進んで助けている。（77.8%⇒83.3%）（子どもの変容）  
 ジェンダー平等の観点をきっかけに、個々の「自分らしさ」や「もちあじ」を尊重しようとする姿勢につながった。